

J A M 政策NEWS

2004年4月12日 第2004-20号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

03-3451-2586

E-MAIL : syakai@jam-union.or.jp

国政の場に仲間を持つことの意義再確認

J A M 年金改革実現・やっтарろー決起集会に1,000人が結集

4月9～10日、東京で「年金改革実現・やっтарろー活動」J A Mデーを実施しました。

9日は、まず憲政記念館（東京・永田町）に全国から300人が集まり、全体集会を行いました。地方をまわっていた津田やたろうも、集會に駆けつけあいさつをしました。

集會の後、国会前すわりこみ行動と、要請行動を実施。厚生労働大臣・衆参議長・衆参厚生労働委員会委員長に対して、国民の声に真摯に耳を傾け、多数の暴挙を許すことなく、公正かつ十分な審議を行うよう、要請をしました。また、民主党全議員には安心と信頼の年金制度構築のために、奮闘していただくことを要請しました。

さらに午後5時から6時30分まで、参加者は有楽町と新橋に分かれて街頭宣伝行動を行い、仕事帰りの人々に「年金改悪阻止」を訴えました。

1,000人で「やっтарろー!!!」

翌10日は、東京・浜松町「ニューピアホール」で決起集会を開催。J A M組合員約千人が集まりました。

決起集会では、地方J A M代表・シニアクラブ代表・女性協代表がそれぞれ決意表明を行いました。集會アピールをJ A M愛知・伊藤さんが提案。政府法案の成立を阻止し、抜本的年金改革の実現と参院選・津田やたろうの勝利に向けて、一致結束して闘い抜くことを誓い合いました。（J A Mデーの詳細は、J A M機関紙・月

刊J A Mでお知らせします。）

厚生労働委員会で本格審議始まる

9日の衆議院本会議では、民主党案の趣旨説明を行い、引き続き開催された衆議院厚生労働委員会には、小泉総理が出席しました。総理の一元化発言に対する質問に対して、小泉総理は「政府案は5年ごとに財政再計算を行わず、給付と負担の均衡をはかることができる、まさにこれが抜本改革である。一元化は今の法案を通してからでも十分間にあう。法案成立後にぜひ与野党で協議を。」と巧妙に話をすりかえました。

民主党案に対する質疑で、与党委員は新制度移行までのあり方や年金財源等について質問をしました。しかしこの質問は、与党委員が年金制度の勉強不足や国民の生活実態をよくわかっていないことを露呈する結果となりました。（民主党案は政策ニュース 19参照）

民主党委員は、「年金保険料を社会保険庁の事務費に流用する法律の延長法案」を可決したことについて厳しく追及しました。これに対して小泉総理は、「年金保険料はすべて年金給付に充当すべきであり、指摘は真摯に受け止めた。事務費の使い方に問題があったことは認めざるを得ない、改めるべく検討する。」と答弁をしました。

J A Mでは、横河電機労組松本委員長と本部書記局が本会議と厚生労働委員会を傍聴し、すわりこみ活動で傍聴報告を行いました。